

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年 2月 16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691000188
法人名	医療法人 天和会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県指宿市東方8714-3 (電話) 0993-23-1101
自己評価作成日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の健康管理には十分に配慮できるよう、法人委託医、看護師等や協力医療機関との連携や、協力施設等の応援体制が整っております。
 ・散歩に出かけたり、イベントを行い“四季を楽しみ、地域を楽しみ、生活を楽しむ”ことができるように努めています。
 ・入居者の方が、その人らしく、のびのびとした生活が送れるように、おひとりおひとりの想いを大切にしたい個別ケアが実施できるように、職員一同努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地より少し離れた閑静で自然豊かな地区に 母体医療法人の医療機関や通所リハビリセンターと同一敷地に昨年4月に開設されており、広い敷地には多種の樹木等が植えられて、四季を感じながら平穏に生活できる環境である。近くには耳鼻咽喉科の医院や小学校、保育所、大型電気店、衣料品店、コンビニ、公営住宅等があり、地域住民と交流を図りながら平穏に暮らしている。法人全体で情報の提供や研修の実施、災害時の対応等の協力体制が構築されており、利用者や家族の安心に繋がっている。

管理者及び職員は、理念に沿って利用者の尊厳や想いを大切に意向の把握に努め、安全を確保しながら利用者が笑顔に満ちた日々を過ごせる支援に取り組んでいる。利用者の健康状態に配慮し、希望に添って外出やレクリエーション等に計画的に取り組み、また、個別の支援も積極的に行って、利用者の気分転換を図っている。日常の散歩や買いもの、菜の花マラソンの応援などで地域との交流を進めているが、開設後の期間が短いこともあり十分とは言い難い。今後は、積極的に地域との交流をはかり、災害時の協力体制の構築を検討している。

管理者は、日頃から職員との信頼関係や協力体制の構築に努め、意向や要望等を気軽に述べ合ってサービスの質の向上を図っている。開設して10カ月が経過し、日常的な協議等で体制は構築されており、各委員会の充実等の成果が見られている。また、職員のスキルアップや資格取得については、母体法人も積極的に推奨しており、経費の助成や勤務体制への配慮をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を提示し、ミーティング時には、職員全員で復唱し、理念の共有と実践に努めている。	開設時に「利用者の想いを大切に、地域と触れ合いながら笑顔に満ちた日々が過ごせるような支援」を理念に掲げ、リビングに掲示し職員会議等で唱和して共有を図り、振り返りや意見交換を行って実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事（敬老会、誕生会）など案内をさせていただいたり、地域の行事へのお誘いをいただいたりして、地域の交流が図れるように努めている。	地域の情報把握に努め、菜の花マラソンの応援や散歩、買い物、美容室での整髪時の会話等で交流を図っている。クリスマス会には家族や地域住民、踊りのボランティアの参加が得られ、日常的に農産物を頂いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族をはじめ、地域の方々が直接相談に来られた際には、傾聴し、適切な情報提供ができるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホーム内での入居者状況等の報告を行い、参加の皆様からの意見を取り入れサービス向上に努めている。	会議は家族代表、民生委員、公民館長、市担当職員、法人の理学療法士等が参加して定期的で開催しており、ホームの現況や行事、ヒヤリハット等を報告し、委員からは利用者のケアや防災に関する意見等が活発に出されている。職員は、内容を会議録で共有してサービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や、グループホーム連絡協議会への参加など、事業所内の困りごと等の相談を積極的に行っている。	市担当職員とは、介護保険更新や各種報告書の提出時、また、日頃から運営やケアに関わる相談や協議を行い助言を受けるなど、協力関係を築いている。市やグループホーム連絡協議会主催の会合や研修会等に参加し、行政職員や他施設職員と情報や意見の交換に努め、運営やサービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、年に2回以上は、身体拘束等についての勉強会を開催し、日頃から拘束を生み出す状況を作らない環境作りができるよう職員間で情報の共有に努めている。	身体拘束に関する研修を、身体拘束委員会が主となって開催し、具体的事例をあげて意見交換する等共通の認識を図っている。利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉遣いやケアの実践に努めており、不適切なケアに対しては職員間で注意し、申し送りやミーティング等でも意見交換して改善を図っている。昼間は施錠せず、対話や散歩等で安定を図るなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務のなかで、職員同士で気付いた言動については、カンファレンス時に報告、注意し合える関係作りを心がけ、些細な変化に気付ける職場環境に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当ケアマネジャーが後見人との連絡を密にとり、入居者が安心して生活できるように努めている。また制度等については周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時に、入居者、家族に対して説明を行い、不明な点がないかを確認しながら、疑問点や不安点に対しての説明ができるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より入居者の方々とのコミュニケーションに心がけている。また家族の面会時には積極的に話をさせていただき、要望を伺い改善に努めている。</p>	<p>利用者の意見や要望を、日々の会話や表情、仕草、独自のサイン等から把握に努めている。家族の来訪時には、近況を伝えながら気軽に意見等を貰うように取り組み、運営推進会議、ケアプラン見直し時、意見箱でも把握して、サービスの改善に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1日2回の申し送りの時間を設け、申し送りノートを活用しながら、報告だけでなく、問題提起をしながら職員全員の意見が反映されるように努めている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日常業務の中や申し送り、個人面談等で業務に関する意見や悩み等を把握し、職員全員で検討して業務の改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトや外部研修出席には可能な限り職員の要望を反映させ、スキルアップや資格取得に対しても受講料の補助を行うなど積極的に支援している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現在の勤務状況を把握しながら、勤務の調整を行い、職員の心身のバランスが保てるよう配慮している。また資格取得を促し支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験や力量に応じた外部研修への参加を促したり、内部研修を開催したりして、職員間でのスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催する研修等へ積極的に参加したり、グループホーム連絡協議会に加入し、他施設の方々との交流を通し情報交換を行い、施設全体の資質向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった時点で、自宅、施設等へ事前訪問を行い、本人との面談を実施し、困りごとや不安を傾聴し、より良い関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった時点で、家族との面談を実施し、これまでの経過を伺い、家族の気持ちに寄り添い、困りごとや不安を傾聴し、より良い関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所相談時に本人、家族の意向を確認しながら、本人、家族の意向に沿った情報提供を行えるように、地域内の情報収集に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>起床時の挨拶から始まり、就寝時の挨拶で終わる生活を意識して、一日の生活を通して、あらゆる場面でコミュニケーションを図り、共に暮らす一員としての関係性が保てるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「生活状況報告書」を作成し、本人の状況を報告したり、家族の面会時に、本人の要望や思いを伝えたりして、本人と家族の橋渡しができるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚の方の面会や、家族に協力をいただき、本人が行き慣れた美容室やお店への外出支援が定期的に行えるように努めている。	入所前の生活状況等をアセスメントで把握し、利用者毎に馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って周辺の散歩や地域行事への参加、買い物、美容室利用等を家族と協力して支援している。遠方の家族にも状況報告書で近況を伝えるなど、関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流をみながら、利用者同士の共通の話題を見つけ、職員が橋渡しを行い、利用者同士がお互いに支え合える関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が自宅でどのように過ごされているか居宅のケアマネジャーへ連絡したり、家族に状況確認するなど、必要があれば情報提供や相談に応じられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの気持ちに寄り添えるように、ゆったりとした気持ちでコミュニケーションを図る時間を設ける努力をしているが、まだ十分とは言えない。	日頃の会話や寄り添い、見守り等で、利用者の思いや意向を把握し、本人主体の最善のケアになるよう取り組んでいる。その人らしい笑顔のある生活が過ごせるように趣味の取り組みや余暇時間の過ごし方は、可能な限り希望に添って個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に居宅ケアマネジャーから情報を得たり、本人家族から生活歴等の聞き取りをしているが、まだ十分とは言えない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居宅ケアマネジャーや家族からの情報等から、その人らしい生活が送れるように、朝夕の申し送りやミーティング時に情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の会話や家族との面談時に得た情報等については、職員間で共有し、それぞれの意見やアイデアを尊重し計画に反映できるように努めている。	利用者及び家族の想いを汲みとり、主治医や理学療法士等の意見を基に、具体的に解りやすい介護計画を作成しモニタリングも適切に実施している。ケアの状況は「バイタルチェック表」「業務日誌」等で共有し、改善へのアイデア等も活かして改善に努めている。定期的な見直しに加え、状態の変化時には計画を修正する等、実状に即した支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録、申し送りノートを活用しているが、記録の記入がそれぞれの入居者に対しての気づき等がまだ不十分である。今後介護計画の見直し等に活かせるように努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合った柔軟な支援が行えるように努めているが、職員だけでは困難なことが多く、今後はボランティア等を取り入れ個別支援が行えるように努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事もまだ少なく、地域行事へのお誘いもいただいていたが、参加できていない。今後は住み慣れた地域行事への参加も積極的に実施できるように努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である法人委託医の訪問診療や協力医療機関との連携ができており、必要に応じて職員、家族の付き添いにて専門医の受診が行えている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。定期的な通院や訪問診療が実施され、専門医での受診も家族と連携をして取り組んでいる。日常的に健康管理に努め、主治医や協力医療機関との連携体制も構築されて、利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>1日3回のバイタルチェック、状態観察により体調を把握し、入居者の変化については、職員同士で確認し合い、管理者へ報告。状況に応じて看護師に相談、適切な対応ができるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者が入院した際は、早急に情報提供を行い、直接病院に向き、顔の見える関係作りを心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「看取り」についての説明を行っている。介護度が重度化しても、可能な限り、本人家族の意向に沿ったサービスの提供ができるように連携を図っていく必要がある。</p>	<p>ホームの看取りの対応については指針を整備し、入所時に本人や家族に説明して理解と同意を得ている。重度化した時点で、主治医や家族、関係者で十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援に取り組む体制の構築に努めている。今後は重度化や看取りに対する研修を実施し、技術のスキルアップや不安感の軽減を図る意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生マニュアル等はあるが、職員全員にはまだ浸透していない。応急手当や初期対応等について、今後定期的に勉強会を予定している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>現在までに2回避難訓練を実施したが、職員全員が習得しているとは言い難い。緊急時にはスムーズに動けるように更なる訓練が必要。また地域の方々の協力体制を整える必要がある。</p>	<p>消防署の協力を得て2回防災訓練を実施している。日頃から避難経路の確認や他施設の災害事例を基に意見交換等も実施して、職員の共通の認識や対応方法等の修得を図っている。スプリンクラーや自動通報機が設置され、連絡網、非常ベル等の整備や災害発生に備えて食料や飲料水も備蓄している。今後は、災害時の地域住民との協力関係の構築を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に心がけているが、不適切な時もある為職員同士でも注意し合えるように努めている。	人格の尊重やプライバシーの確保については、研修の実施や日常的に意見交換して尊厳に配慮したケアに取り組んでいる。居室への入室や排泄、入浴等のケアに際しては、特に人格を損ねる言葉や対応を行わないように職員は注意喚起し合っている。居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造で、ケアに関する台帳等も慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話のなかで、本人の思いや願いを引き出せるように努めている。また家族からの情報も大切にして、情報の共有に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのその日の体調をみながら、入浴や散歩の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	居室からホールに出る際は、髪を梳いたり衣服を整えたり本人ができる事への声かけを行いながら身だしなみができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ食材を話題にしたり、味噌汁のだしに使用するイリコの下ごしらえを一緒にしたりして、食への興味を持てるように努めている。	利用者の嗜好や摂取制限、形態等を把握し、法人の栄養士の助言等を貰いながら調理している。季節感のある食材や行事食、代替品の提供、手作りのおやつ、弁当持参のドライブなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、利用者も楽しみながら下ごしらえ等を行っている。利用者毎に食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量をチェックし、一人ひとりの状態にあった食事形態の提供に努めている。水分摂取については、必要量が確保できているとは言い難い。水分量確保できるよう工夫が必要。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、誘導を行い、入居者の状況に合わせたケアを行っている。義歯洗浄については、洗浄剤を職員が管理し夕食後に実施、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導やパッド交換を行っている。トイレ介助、おむつ交換時には自尊心、羞恥心に配慮した対応に努めている。	利用者各人の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事や水分の摂取状況を把握して便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心や不安感の軽減に配慮し、生活習慣や身体の状態に応じた介護用品及び支援方法を、介護計画に反映させて改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便管理を行い、回数、形態をチェックしている。排便が3日以上ない場合には、看護師へ報告、委託医へ相談し内服の調整を行っている。今後も便秘改善について個々に応じて取り組んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日を固定せず、入居者の心身状態に配慮し、週2～3回は入浴できるように対応。入浴拒否の方は、その都度職員同士で話したり家族に協力を得て入浴を楽しめるように努めている。	健康状態に配慮しながら、週2～3回の入浴を支援し、排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔を保っている。温度、時間等は希望に添って柔軟に対応し、ゆっくりと楽しんでもらえるように配慮し、入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間や声掛け等の変更や家族の協力も貰う等、工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のその日の体調に応じて自室にてゆっくりと休んでいただけるようにしている。また夜間帯は安眠できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回協力調剤薬局の管理のもと、内服についての助言をいただき、服薬確認は職員2人で行い、誤薬等がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を振り返り、本人の得意なことを見出せるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居後もこれまで過ごした地域に帰り、馴染みの店や美容室に出かけられるように家族の協力を得ることができている。外出レクでは入居者全員が宮ヶ浜へお弁当を持ち、潮風を感じながら、錦江湾に浮かぶ知林ヶ島を眺め昔話に花が咲いた。	利用者の外出への意向を、日頃の関わりの中で把握し、天候や健康状態に配慮しながら園周辺の散歩や買い物、通院、地域のイベント、一時帰宅等の個別の外出を、家族と協力して取り組んでいる。また、季節の花見やレストランでの夕食、弁当を持参して海岸へのドライブ等、全員での外出も実施して利用者の気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在本人が小遣い程度の金額を持っている方以外は、現金管理は家族、後見人が行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>県外に住んでいる家族から電話があつたり、本人から家族に連絡したいと希望がある為その都度対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは天井が高く、天窓もあり明るく、適度な広さで車いすも十分に行き来しやすい環境となっている。テーブルと椅子は床の色と調和しており、畳間との段差もなくゆったりくつろげるソファも備え、家庭的な雰囲気となるように努めている。</p>	<p>ホームはバリアフリーで高い天井や天窓、落ち着いた色調の内装など、明るく快適な生活に配慮された構造で、余裕ある広さが確保されている。リビングには、テーブルセットやテレビ等が動線や利便性を考慮して配置され、日常的に清掃や衛生管理に取り組んでいる。利用者の作品や写真、活花等も随所に飾られ、周辺の景色から四季が感じられるなど、和やかで落ち着いた雰囲気となっており、畳部分も設けられ利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースの場での席決めは、入居者同士の関係性を考慮しながら、気の合った者同士での会話が弾んだり個々がそれぞれにゆったりと過ごせるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時点で、使い慣れたものや本人の好みのものをお持ちいただくよう説明を行っている。入所後も居室内の照明、温度調整に配慮し、心地よく過ごせるように努めている。</p>	<p>居室には、エアコン、ベッド、クローゼット、家庭用コールが備えられ、利用者の意向を確認しながら清掃等を支援して安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。使い慣れた寝具や机、家族写真、小物等を持ち込み、自身の作品も飾って、家庭同様に居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっており、1人で車いす移動を行う場合でも廊下やトイレ内の広さも十分に確保し安全かつ自立した生活が送れるように努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない